

## 気になるインバウンドの動向

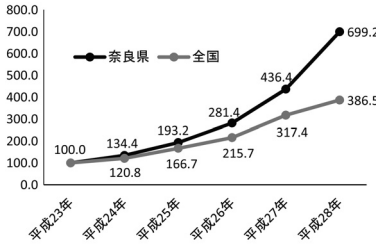
### ■インバウンドの増加

インバウンド（訪日外国人観光客）が好調だ。日本政府観光局によると平成29年は11月までの訪日外客数累計は26,149千人となり、過去最高だった平成28年の24,040千人を更新した。

奈良県への訪問も増加しており、平成23年以降の推移をみると増加率は全国を上回る（図表1）。

訪問者を国・地域別にみた割合、奈良県の特徴は、全国に比べ中国の割合が高く、韓国の割合が低いことである（図表2）。

図表1：訪日外客数の推移（平成23年=100）



資料：観光白書（観光庁）、訪日外客数（JNTO）

図表2：国・地域別訪問割合（上位4位、%）

	全国	奈良県
中国	26.5	42.0
台湾	17.3	18.3
韓国	21.2	10.3
香港	7.7	7.1

資料：訪日外客数（JNTO）

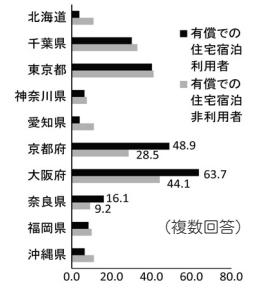
①訪日客の3割弱を占め、その多くが大阪府、京都府へ訪問することから、宿泊施設のオーバーフロー客が奈良へ流れている、②平均泊数が11.8泊（訪日外国人の消費動向 平成28年（観光庁））と多く、大阪や京都訪問の「ついで訪問」として半日程度の訪問ニーズがある、と考えられる。訪問地が奈良公園周辺に集中しているのもこれを裏付ける。一方、韓国は約2割が福岡空港または博多港から入国する。さらに、平均泊数が4.5泊と中国（同11.8泊）や台湾（同7.4泊）に比べ短いこともあり、訪問は九州地方や京都、大阪、東京といったメジャーな観光地が中心で、時間的な面からみて奈良は少ない。

### ■「有償での住宅宿泊（民泊）利用有無での比較

昨今、宿泊施設の不足等から民泊が増え、訪日外国人の利用が増加している。「訪日外国人消費動向調査 平成29年7-9月」（観光庁）によると、日本滞在中の利用宿泊施設として「有償での住宅

宿泊」は、「ホテル」（75.1%）「旅館」（18.2%）に次ぐ第3位の12.9%を占める（図表非掲載）。また、都道府県訪問率の上位10位を「有償での住宅宿泊」（宿泊地は問わない）の利用有無で比べると、「京都府」「大阪府」「奈良

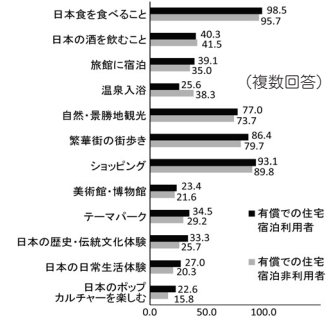
図表3：都道府県訪問率（%）



資料：「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）

県」の3府県のみ、利用者の訪問率が非利用者よりも高かった（図表3）。12項目の「旅行中にしたこと」のうち、「利用者割合>非利用者

図表4：旅行中にしたこと（%）



資料：「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）

割合」で、かつ差が最も大きいのは「日本の歴史・伝統文化体験」だった（図表4）。

次に、「有償での住宅宿泊」の有無別による1人あたりの旅行支出（全国籍・地域）をみると、宿泊料金は単価の違い等から約7千円の差があるものの、飲食費、交通費、娯楽サービス費、買物代は大差なかった（図表5）。

図表5：「有償での住宅宿泊」の利用有無別にみた旅行支出（単位：円）

	1人あたりの旅行支出	宿泊料金	飲食費	交通費	娯楽サービス費	買物代	その他
有	145,618	37,379	31,683	18,356	5,184	52,993	22
無	155,655	44,860	31,985	17,398	5,855	55,514	43

資料：「訪日外国人消費動向調査」（観光庁）

### ■おわりに

インバウンドは着実に増加し、その関心はリピーターの増加もあって都市部（メジャー）から地方へ移りつつある。そういった中、「有償での住宅宿泊」は今後法整備が行われ、市場は拡大していくものと思われる。「有償での住宅宿泊」の増加が今後奈良県の観光にどのように影響を及ぼすのか、推移を見守っていきたい。（丸尾尚史）